

PEAK1

北アルプスパノラマ銀座の真ん中で 歴史を受け継ぐ 4代目

常念岳の肩で100年以上の歴史をつなぎ、北アルプスパノラマ銀座を歩く登山者のよりどころとなっている日本アルプス常念小屋。小屋を受け継ぎ日々奮闘する山田雄太さんに話を聞きました。

幼い頃から、夏休みはずっと山小屋で生活するのが当たり前でした。高校2年生の時、祖父（2代目）が亡くなり父が3代目を継ぎました。しかし、父は設計士の仕事が忙しく、支配人の大叔父も高齢になっていたこともあり、将来の常念小屋が気掛かりに。ちょうど進路を決める時期だったこともあり、自分が小屋を継いでみようと考えようになりました。

4年間の修行期間を経て2年前に常念小屋に入りました。「汗を流して常念岳に登り、同じ屋根の下で常念小屋での一夜を過ごす皆さんに良い思い出と共に無事下山してほしい」という創立当初からの思いを大切にしながら、スタッフと一緒に快適な登山をサポートすることを普段のモットーにしています。

常念小屋に入ってから、新たなスイーツの開発に取り組んだり、夜の楽しみとして「Bar 常念」をオープンしたりしました。さらに地元の日本酒やクラフトビールやオリジナルグッズのラインアップも充実させました。こうしたアイデアは、スタッフや登山者との会話がヒントとなって生まれることがほとんどです。

安曇野の皆さんが、常念岳に親しみを感じてもらっている事をとてうれしく思います。日頃、麓から見上げている常念岳にぜひ登ってもらい、季節によって変化する田園風景や色づく山々などの美しい安曇野を見下ろすことで、もっと安曇野が好きになってもらえるとうれしいです。

Information 平日に2つの山小屋に泊まって限定グッズをゲット！

10月31日(木)までの平日に北アルプスパノラマ銀座の6つの山小屋(燕山荘・大天荘・大天井ヒュッテ・常念小屋・蝶ヶ岳ヒュッテ・大滝山荘)のうち2つに宿泊した人に限定ノベルティグッズが抽選で当たる山小屋宿泊キャンペーンを行っています。
問観光課 Tel71-2055

キャンペーンの詳細とノベルティをデザインした真鍮アクセサリー作家・山本葵さんの作品に込めた思いなどのインタビューは右記2次元コードからご覧いただけます。



日本アルプス常念小屋 山田 雄太さん (24)

プロフィール

高校卒業後、4年間涸沢ヒュッテで修行し、遭難対策や調理、建物の修繕、登山道整備を学ぶ。2年前から常念小屋の4代目として日々奮闘中。好きな食べ物は山小屋では食べられない刺身。



新メニューのチーズケーキ



小屋開けの日にスタッフと雪の上で

振ると
真鍮が奏でる
音色が
響きます



山小屋をイメージした
限定ノベルティグッズ

北アルプスを 未来へつなぐ

「私たちが毎日のように眺めている北アルプス。そこには、山を受け継ぎ、守り、残し、その魅力を伝える人たちがいます。安曇野の暮らしと共にある北アルプスを未来へつなぐ力に迫ります。」

日本百名山の一つに数えられる常念岳、槍穂高連峰を一望できる蝶ヶ岳などが連なる北アルプス。2000年以上の山々が連なり、北アルプスパノラマ銀座と呼ばれ、雄大な自然を私たちに見せてくれています。季節を問わず全国、そして海外から、この自然の豊かさを求めて多くの登山者が訪れます。

北アルプスは、私たちの生活と深く関わっています。冬に降り積もった雪は長い年月をかけて里に湧き出し、安曇野のおいしい水道水や農業用水になります。また、西側からやってくる雨雲や台風も北アルプスを越えることが少なく、1年を通して晴天率が高く穏やかな気候を生み出しています。この北アルプスの環境は、登山道整備や草刈りなどを行っているボランティアや山小屋関係者の力で守られています。北アルプスを身近に感じ、ふるさとの山として関心を持ち関わることで、持続可能な北アルプスにつながります。そして、それが安曇野の未来につながっていきます。

安曇野のシンボル 北アルプス